



節分～心の中の鬼退治～

校長 栗原 元一

新しい年になったと思ったら、もう、2月です。2月4日の立春を迎えると、暦の上では春ですが、まだまだ寒い日が続きそうです。今年の1月6日に発生した島根県東部を震源とする地震の被災地では、未だに復旧のめどが立っていない地域が多く、寒さや雪の中、厳しい生活を強いられていらっしゃる方が大勢おります。少しでも早く暖かくなってほしいです。また、本稿をお読みの皆様方、またはご親族様の中には、現地で被害に遭われた方がいらっしゃるかもしれません。ご無事と、被災地の1日も早い復興を願ってやみません。

さて、1月往ぬる（いぬる・行く）2月逃げる3月去ると言われます。これは、お正月から3月までは行事が多く、あっという間に過ぎてしまうことを調子よく言ったものだそうです。学校は、これから卒業証書授与式や修了式まで、本当にあっという間に過ぎていきます。だからこそ、一日一日を大切にしながら、過ごしていきたいと考えています。

逃げる2月には「節分」があります。その節分について、調べてみました。

「節分」という言葉には、季節を分けるという意味があります。暦の上で、節分の翌日が「立春」で「春になります」、という日です。ですから、節分は



「冬と春を分ける日」ということになります。昔の日本では、春は一年のはじまりとされ、特に大切にされていたそうです。

ところで、節分というと「豆まき」を思い浮かべます。これは、「みんなが健康で幸せに過ごせますように」という意味をこめて、悪いものを追い出す日とされているからです。悪いものを追い払い、良いものを呼び込むために、豆をまきます。

では、なぜ、鬼を追い払うのでしょうか。鬼と聞いたら、つのが生えた赤や青の怖い姿を思い浮かべることが多いと思います。実は、鬼の姿は決まっていませんでした。もともとは見えない悪いものを鬼と呼んでいたのですが、色々なお話を通じて、だんだんと今の形になったそうです。

続いて、豆まきの豆は、どうして大豆なのでしょうか。その理由は、大豆には、たくさんの栄養が含まれているので、鬼を追い出す力がいっぱいいつまっているからだということです。生のままの大豆ではなく、炒ってあるものを使います。これは、生のまま豆をまいて、もし芽が出てしまうと、せっかく追い出した悪いものが芽として出てしまい、育ってしまうといけないからだそうです。ちなみに、場所によっては落花生をまくところもあるそうです。（※なお、前述の言い伝えや風習は、地方によって様々なものがあります。そのひとつと捉えてください。）

鬼は、どこにでもいて、人々の心の中に入ってくることがあります。「泣き虫鬼、おこりんぼう鬼、やだやだ鬼、ちらかし鬼」など、色々な鬼が少し油断すると心の中に入ってきます。

もし、ご家族や地域の方々と「豆まき」をすることがあれば、皆様の中にいるかもしれない鬼もまとめて追い払ってしまいたいですね。

戸塚綾瀬小学校の子供たちが、心の中の鬼に打ち勝って、明るく元気に学校生活を送れるよう、今月も全教職員で見守り、応援・支援してまいります。

川口市教育大綱（令和3～7年度）

一人ひとりが輝く、
しなやかさとたくましさをそなえた人材を育てる
川口の教育